



株式会社フェニックスバイオ (6190)

会社概要と今後の展開について

高度生命科学で新時代を拓く



会社概要・事業内容

経営理念

- ・万物に尊厳の念を以て対峙し、生命を科学することで人々の健康増進に貢献する。
- ・分野のトップランナーを目指すことで、全従業員の物心両面の幸福を追求し同時に人類・社会の進歩発展に寄与する。

会社概要

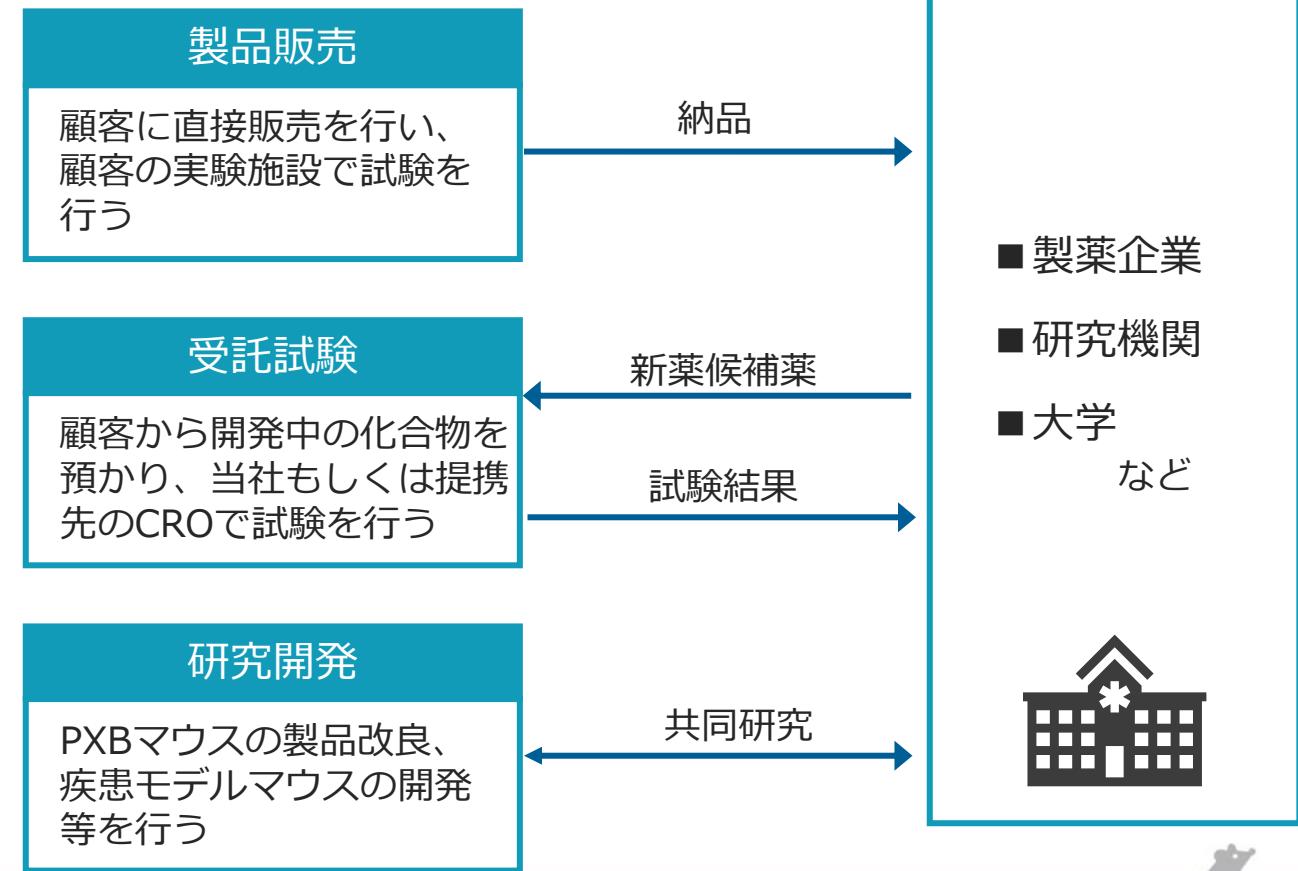
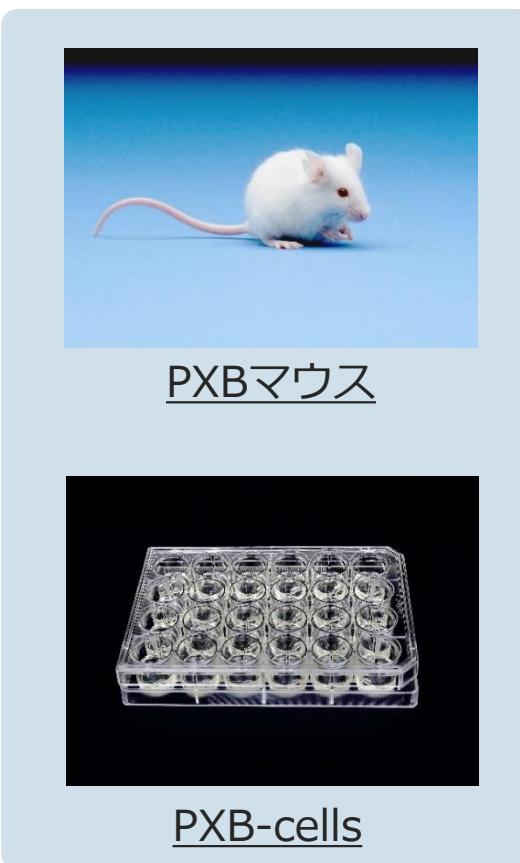
社名	株式会社フェニックスバイオ
設立	2002年3月
代表者	代表取締役社長 島田 卓
資本金	2,369百万円（2022年9月現在）
決算期	3月
本社	広島県東広島市鏡山三丁目4番1号
子会社	PhoenixBio USA Corporation (米国、ニューヨーク州) CMHL Consortium LLC (米国、デラウェア州) KMT Hepatech, Inc. (カナダ、アルバータ州)



事業内容

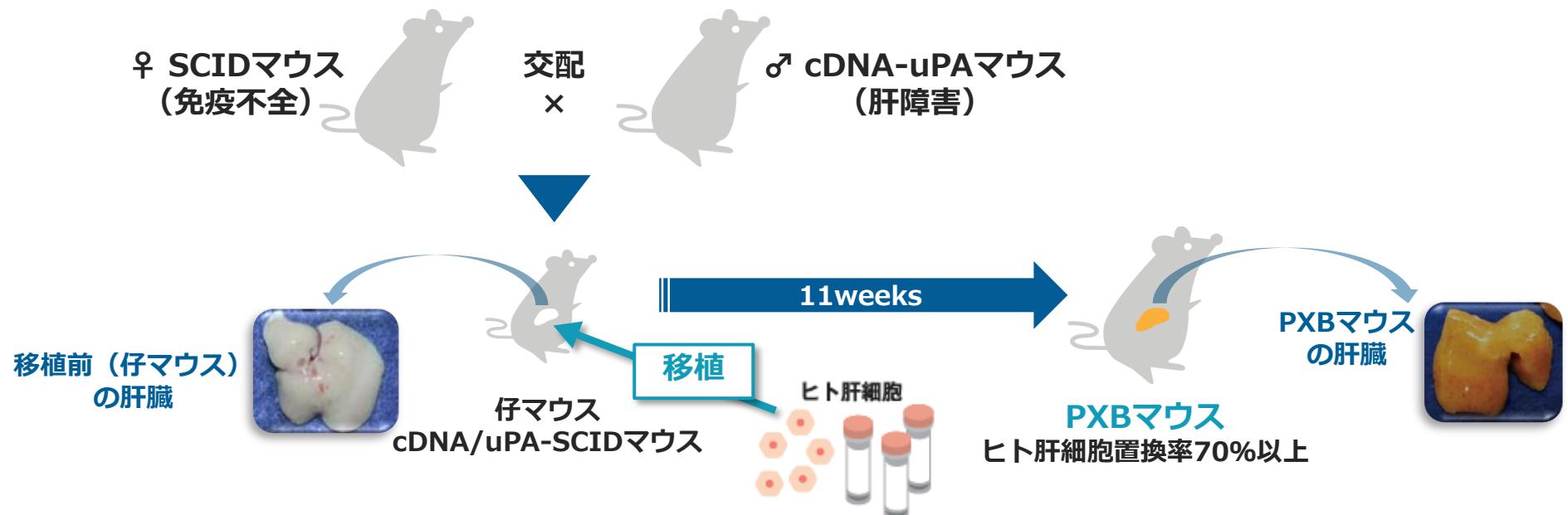
独自開発したPXBマウスを用いて、医薬品開発の支援を行っています

PhoenixBio



PXBマウス (Phoenix Bio Mouse) とは

マウスにヒトの肝細胞を移植して作製したヒト化実験動物



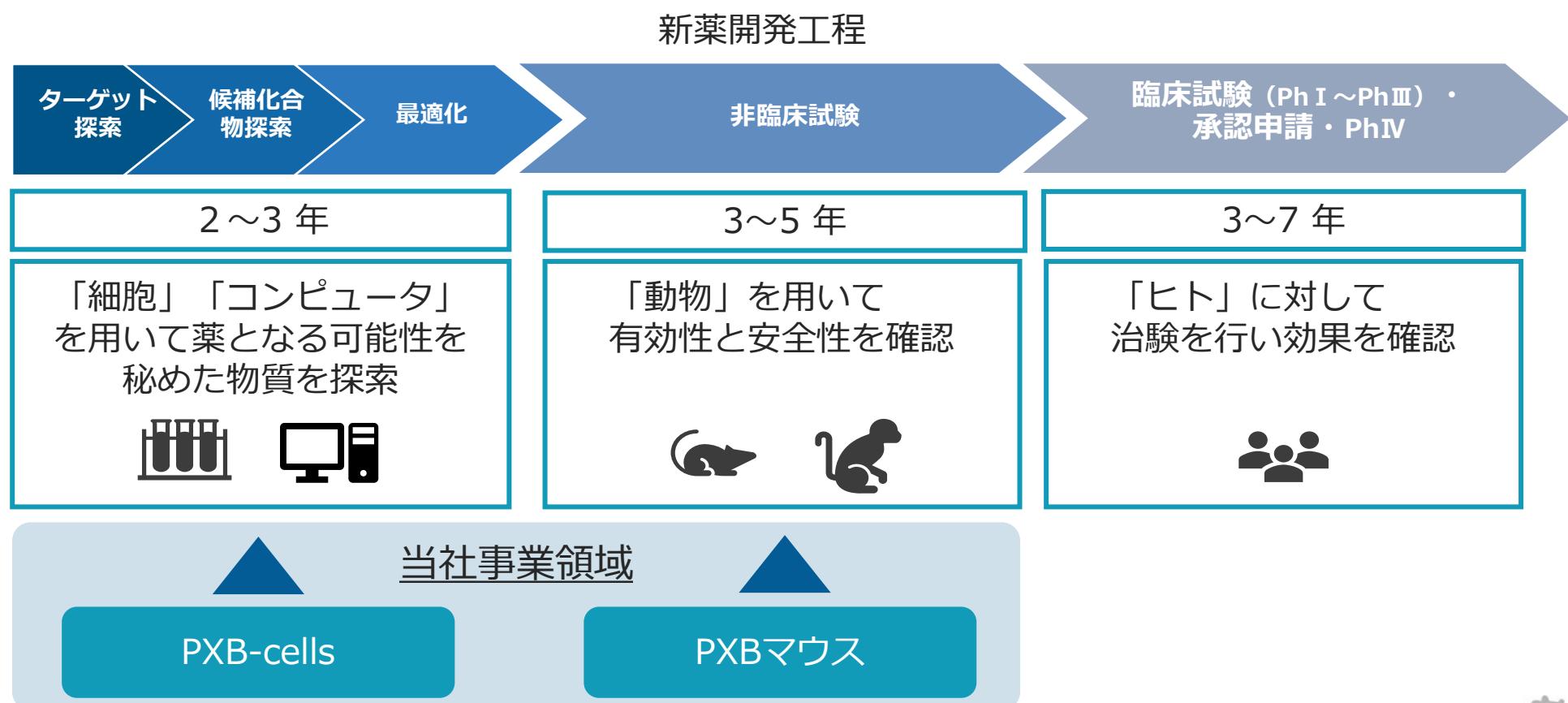
- ・ 肝臓の70%以上がヒト肝細胞に置換している
- ・ PXBマウスの肝臓から新鮮なヒト肝細胞の採取が可能

ヒトの肝臓を持つマウス



新薬開発と当社事業領域

- ひとつの新薬が完成するまでには、長い年月と多額の費用が必要である
- 新薬開発の成功率は**0.003%**程度であり、製薬企業のドロップアウトリスクも高い
- 当社は主として非臨床試験までを事業領域としております

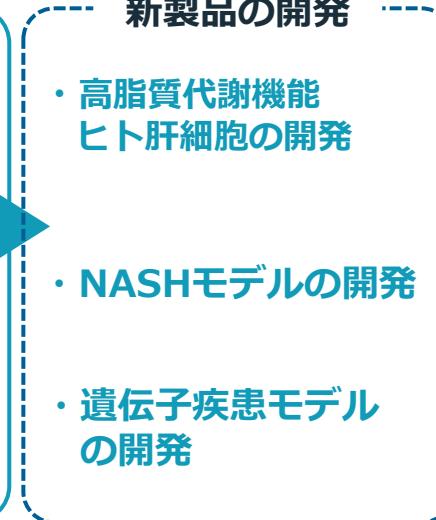
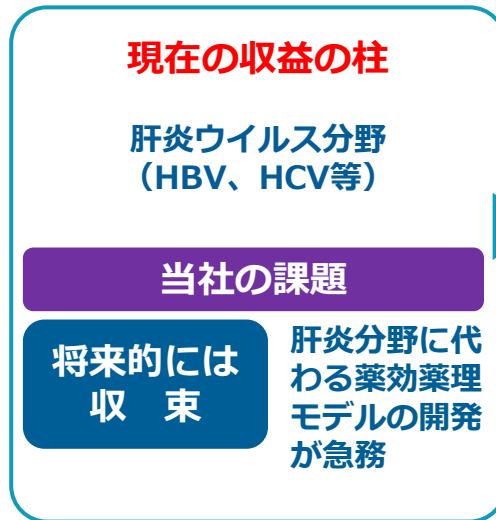
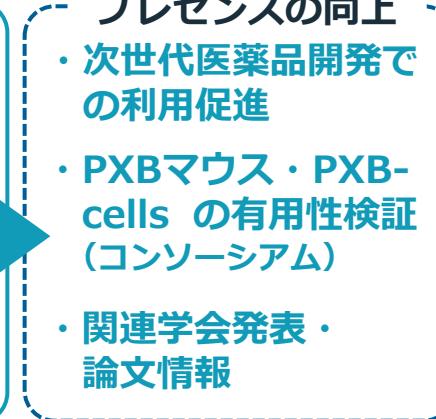
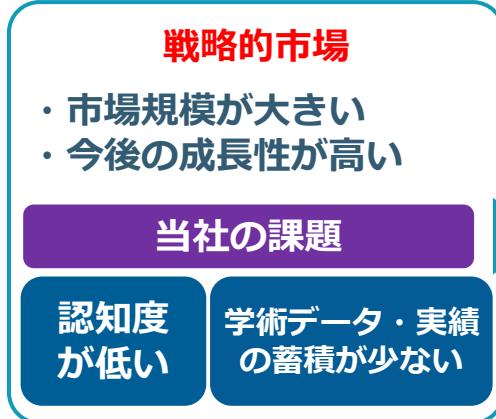


高度生命科学で新時代を拓く



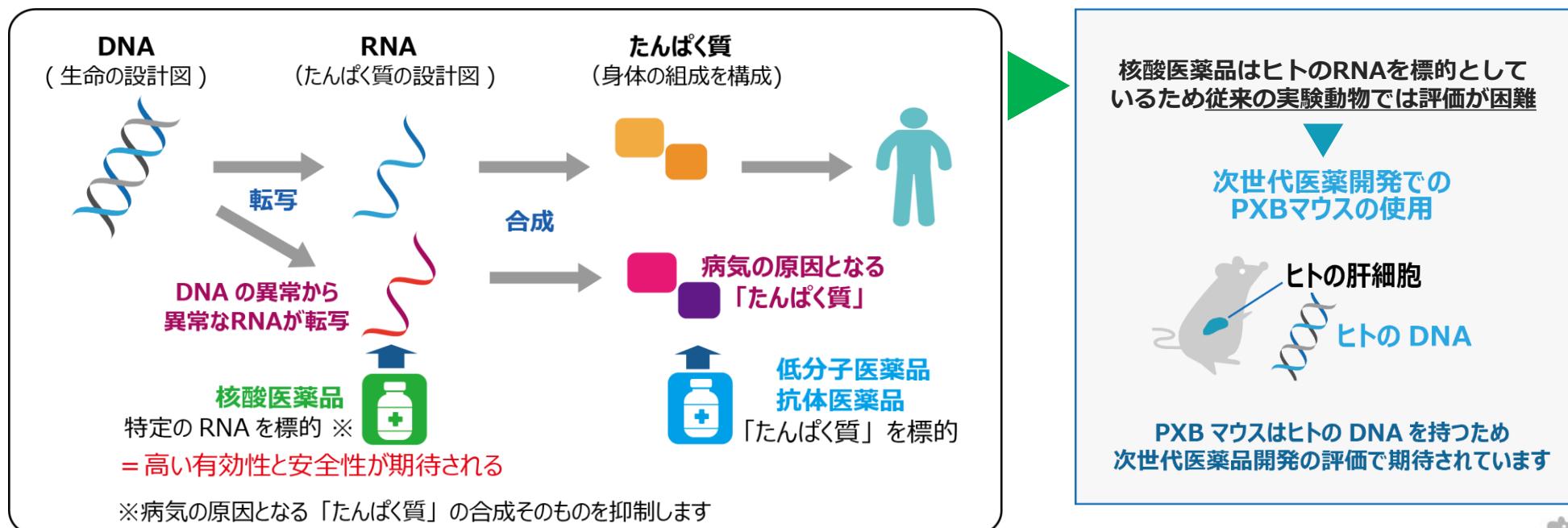
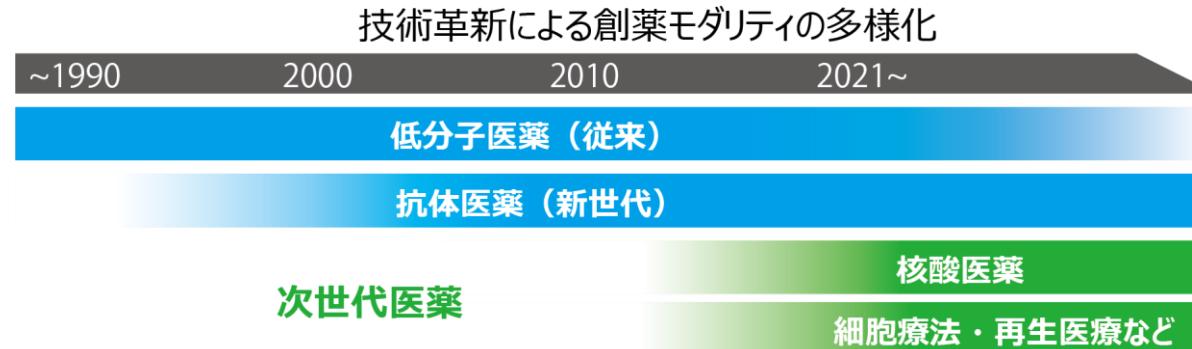
今後の展開と業績推移

事業計画のアウトライン



安全性等分野の拡大 次世代医薬品開発での利用促進

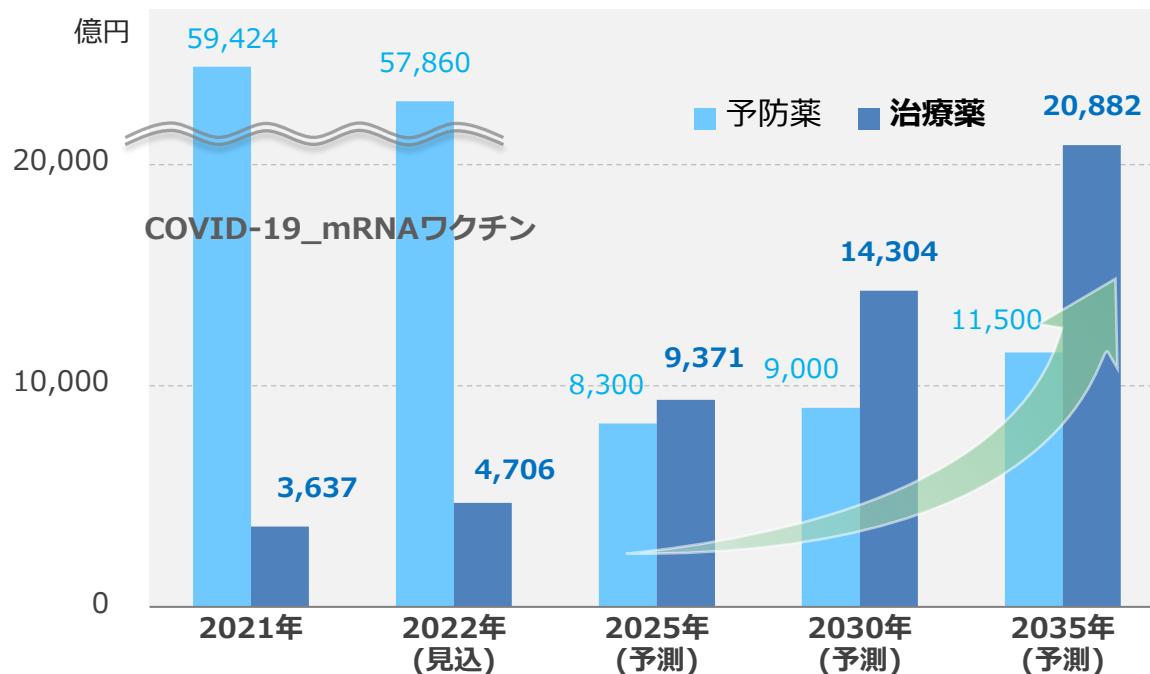
医薬品の開発は、技術革新により「たんぱく質」を標的とした低分子医薬品から、ヒトの「DNA」や「RNA」を標的とした、より有効性・安全性が高い次世代医薬品へシフトしています。



次世代医薬品（核酸医薬品）の市場規模

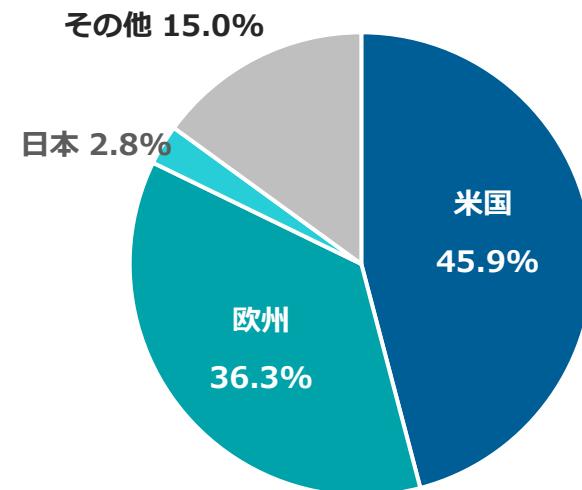
- 2021～2022年は、COVID-19 mRNAワクチンである予防薬が多くを占めているが、2035年には核酸医薬品(治療薬)の市場は2兆882億円程度になると予測されている。
- 米国での市場は、2035年に約1兆4800億円に達する見込み。

世界における核酸医薬品の分類別市場予測



出展：TCPマーケティングリサーチ「2022年 世界の核酸医薬品市場」

核酸医薬品
2035年地域別シェア予測

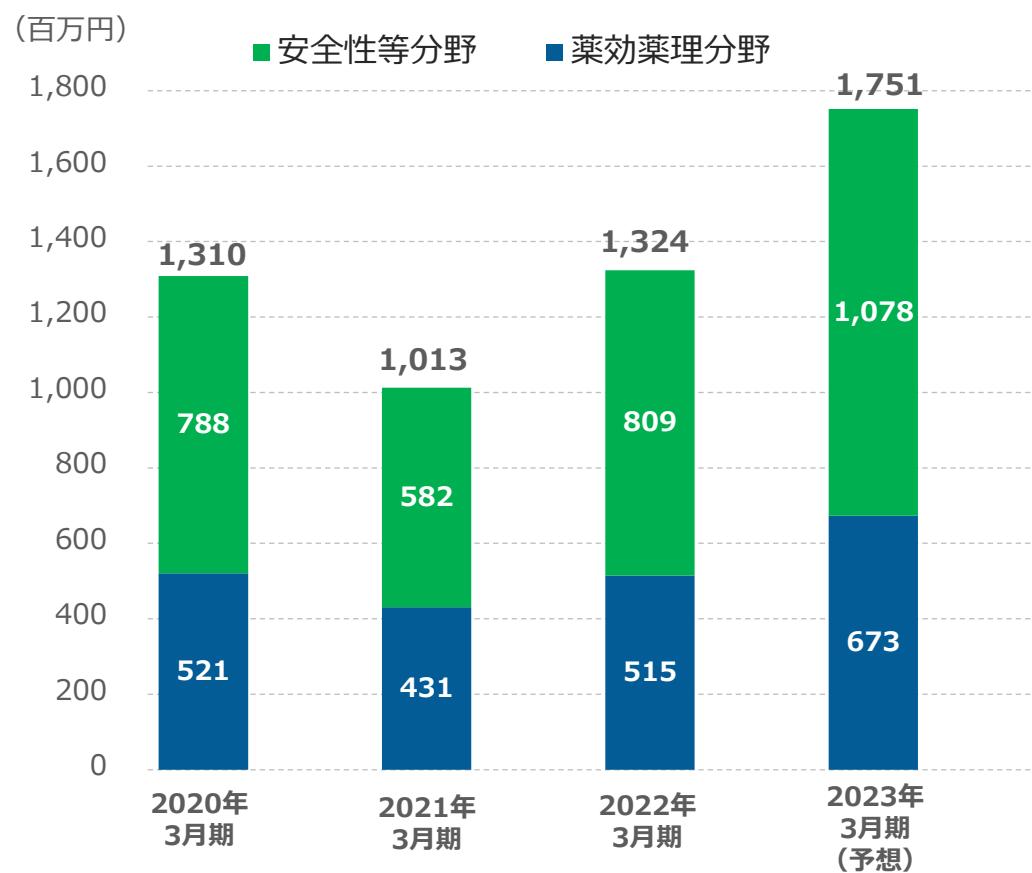


出展：TCPマーケティングリサーチ
「2022年 世界の核酸医薬品市場」
をもとに当社で集計

売上高推移

- 2023年3月期は前期から大幅に増加して、過去最高を更新する見通し
- 海外市場において需要が拡大しており、対前年比+32%の增收見込み

売上高の推移 (PXBマウス事業)



■ 2023年3月期 安全性等分野

- ✓ 核酸医薬品、遺伝子治療等でPXBマウスの利用拡大。
- ✓ 新規に受注した年間のマウス販売契約が収益に貢献

■ 2023年3月期 薬効薬理分野

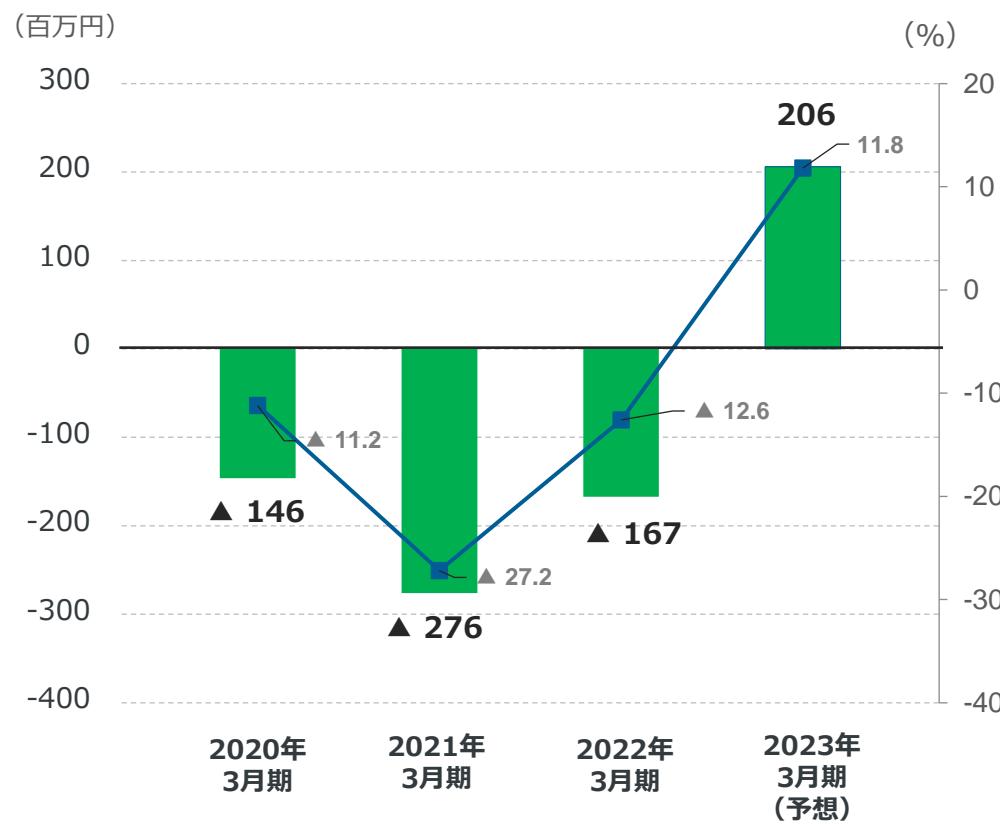
- ✓ 海外市場は抗B型肝炎薬の開発が活発な状況にあり、引き合いが増加
- ✓ 国内市場では抗B型肝炎薬の試験中止及び延期が発生



営業利益推移

- ・ 売上高の増加に伴い、黒字に転換する見通し
- ・ 費用は固定費の占める割合が大きいため、売上拡大が利益に直結

営業利益・利益率の推移



■ 2023年3月期 売上原価

- ✓ 対前期比△13.3%
- ✓ 前期に海外生産施設の減損損失を計上したため、減価償却費は減少
- ✓ 売上高は増加するものの、前期は再試験費用が含まれていたため、外注加工費は横ばい

■ 2023年3月期 販売費及び一般管理費

- ✓ 対前期比+14.8%
- ✓ 米国子会社の営業増員、賃金上昇により人件費は増加
- ✓ 引き合い案件の増加、輸送費コスト上昇により、運賃は増加



海外展開と事業拠点

- 主要市場である北米に営業、生産、研究開発の拠点を構えています。



株式会社フェニックスバイオ
広島県東広島市
PXBマウス及びPXB-cellsの生産
受託試験サービス
研究開発

University of Southern California
米国 カリフォルニア州
共同研究（研究員の派遣）

フェニックスバイオグループ

協力機関・提携先



PXB-mouseの生産拠点

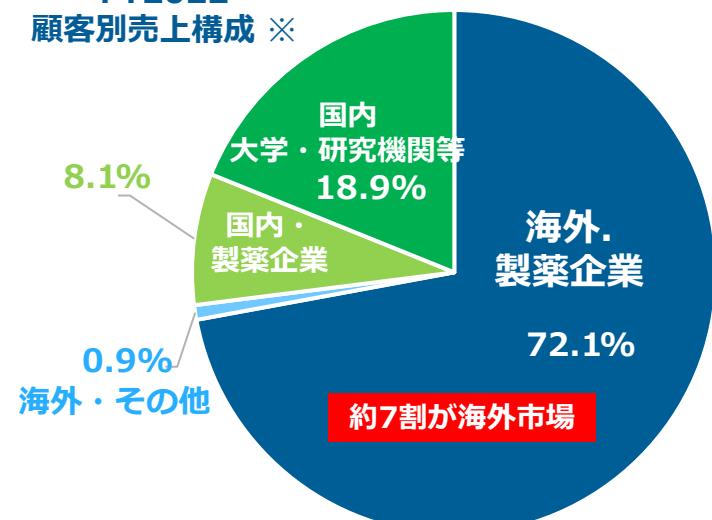
KMT Hepatech Inc (2017年12月完全子会社化)
カナダ アルバータ州エドモントン
PXBマウス及びPXB-cellsの生産



PhoenixBio USA Corporation
米国 ニューヨーク州
PXBマウス事業の海外販売拠点

CMHL Consortium LLC
米国 デラウェア州
製薬企業との共同研究に関する運営

**FY2022
顧客別売上構成** ※



※構成比は従来基準の売上高により算出しております。



ご清聴ありがとうございました

本資料は、株式会社フェニックスバイオの業界動向及び事業内容について、株式会社フェニックスバイオによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。
既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、
将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

株式会社フェニックスバイオの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、現在において利用可能な情報に基づいて株式会社フェニックスバイオによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、
将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではございません。

